

大学寄附講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の5大学に対する寄附講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供による助成を行いました。

1. 対象学生と目的

(1)工学系学生 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点（環境・情報・国際化・技術者倫理等）について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2)人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割について次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

2. 特徴

複数の協力機関からの講師陣
 キーワードによる講義の一貫性の保持
 大学毎の特徴づけ
 学生と講師の双方向授業

3. 実施講義

実施内容は以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	協力機関	特徴	開講年度
県立広島大学	キャリアビジョン	2005.4.11.～ 2005.7.25.	キャリアデザインオフィス ㈱リクルート (財)広島市ひと・まちネットワーク ㈱中国博報堂 マツダ(株)	社会人・企業人の価値観を論じ、自らのビジョンについて考える演習型の講座。前半の講演形式の講義は公開講座で110名が聴講、後半の演習は70名が受講した。 講座を通じて社会を知り自らの価値観を醸成することにより、受講者自身が自らの成長を実感できる点など、高い評価を得ている。	1997年
比治山大学	世界と共に生きる (ボランティア活動を通して)	2005 5.14,5.21 集中講義 夏休み実習	(財)広島市ひと・まちネットワーク アジアの友と手をつなぐ広島市民の会 中国電力(株) キャリアデザインオフィス マツダ(株)	広島県内単位互換科目。高大連携事業。 講義と実地研修と組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。 9名が5つの事業にボランティアとして参加した。	2000年
広島工業大学	技術の新視点	2005.9.27～ 2006.1.24	中国電力(株) 日本アビエ-ム(株) (社)中国地域ニュービジネス協議会 キャリアデザインオフィス マツダ(株)	技術の新しい視点を理解し、これからの技術者に求められる能力要件について学ぶ講座として、3年次生を中心に8年目の実施。 前半の講義では、地球資源、情報化、国際化、技術者倫理の各視点から学習した。後半では、ディベート演習を通じて、情報の収集・分析を基に、論理的に考え、論じられる能力の修得を目指した。最終受講者は10名と少人数ながら、全員が有意義な成果に結びついたという高い評価であった。	1997年
安田女子短期大学	現代社会論 (ニュー価値観論)	2005.9.30～ 2006.1.13	(財)広島市ひと・まちネットワーク マツダ総研 マツダ(株)	前半の講義では、現代社会の仕組みを理解し、現代の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点からとらえるとともに、これからの生活者、社会人としての役割について、学生と一緒に考える機会を持った。 後半の講義では、前半の講義に関連した演習テーマを設定し、それをグループ単位(受講者63名を8のグループに編成)で調査、考察、発表することにより情報収集、分析、発表する能力を身につけさせた。	1998年
広島大学大学院	能力開発特論 (ゼミナール講義)	2005.10.7.～ 2006.2.10	中国電力(株) 日本アビエ-ム(株) (社)中国地域ニュービジネス協議会 キャリアデザインオフィス マツダ(株)	社会人・企業人として必要な技術の視点を理解し、それらを演習を通じて論理的にとらえ論述する能力醸成講座とした。21名が受講し、自らの関心事をディベート論題としてとりあげるなど、学生の積極的な取り組みが評価できる講座となった。 今年度は論題「日本はたばこ税を世界最高レベルまで引き上げるべし」に取り組んだ。	1995年